

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K11940

研究課題名(和文)慢性疾患患者のセルフマネジメント教育ニーズのアセスメント・看護診断・看護介入

研究課題名(英文)Assessment, Nursing Diagnosis, and Nursing Intervention of Self-Management Education Needs of Patients with Chronic Diseases

研究代表者

長谷川 智子 (Hasegawa, Tomoko)

福井大学・学術研究院医学系部門・教授

研究者番号：60303369

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は慢性疾患患者のセルフマネジメント能力向上に向けた看護師の取り組みを促すための研究である。慢性呼吸器疾患患者のケアに携わる看護師の生活支援アセスメント力を調査したところ、看護師のケアリング・マインドと療養生活への提案を患者に適切に伝える能力であるアサーティブネスが影響因子であることが明らかとなった。また、患者のセルフマネジメント行動につながる意思決定過程を支える看護師のAdvance Care Planningでは、主観的規範や態度が影響していた。加えて、慢性腎不全患者への調査では、セルフマネジメントの要素である事前指示書の作成には肯定的認識を持っていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は高齢化社会において増え続ける慢性疾患患者が、安定した療養生活を送るためのセルフマネジメント力向上に向けた研究であり、地域包括ケアシステムにおける地域で自分らしい生活を送る人々の生活の質の向上の一助となりえる。また、慢性疾患患者が自らの生活を構築するための意思決定と、そのプロセスであるAdvance Care Planning: ACPに関する看護師の行動と患者の意識も明らかとしており、人生の最終段階のあり方の支援の一助となることが期待できる。

研究成果の概要(英文)：This study was designed to encourage nurses to improve the self-management skills of patients with chronic diseases. A study of the life support assessment skills of nurses involved in the care of patients with chronic respiratory diseases revealed that nurses' caring mind and assertiveness, which is the ability to appropriately communicate suggestions for medical treatment to patients, were influential factors. In addition, subjective norms and attitudes were influential factors in nurses' Advance Care Planning, which supports the decision-making process that leads to patients' self-management behavior. Additionally, a survey of patients with chronic renal failure revealed that they had a positive perception of advance directives as a component of self-management.

研究分野：看護学

キーワード：慢性疾患 セルフマネジメント 看護師 呼吸器疾患 慢性腎不全 Advance Care Planning ACP Advance Directive

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

慢性疾患とは、永続的に障害が残り、不可逆的な病理的变化に起因するもので、長期的な管理やケアが必要な疾患と定義されている。また、慢性疾患患者は、絶え間ない適応を余儀なくされているため、常にヘルスケアシステムとの相互作用を必要としている。慢性疾患を持つ者が在宅で安定した生活を保つためには、慢性疾患を包括する管理戦略によるセルフマネジメント支援が重要である。加えて、慢性疾患をもつ者は、治療方法や療養生活方法など、自身のセルフマネジメント能力に合わせた選択を行う必要があるため、自己決定能力の向上に向けた介入が重要な課題となっている。

2. 研究の目的

(1) 慢性呼吸器疾患患者に対する看護師の生活支援アセスメント力の実態と、療養生活支援が必要な患者の、その人らしい生活への支援に関した情報を導き出す看護師の姿勢であるケアリング・マインドと、療養生活への提案を患者に適切に伝える能力であるアサーティブネスが、看護師の生活支援アセスメント力に関連しているのかを明らかにすることを目的とした。

(2) 患者のセルフマネジメント行動につながる意思決定過程において、看護師が行う Advance Care Planning : ACP に至るまでの心理的段階である「ACP の行動意図」と、それに影響する要因を明らかにすることを目的とした。

(3) 慢性腎不全患者の意思決定とセルフマネジメントの要素である事前指示書 (Advance Directive: AD) に関する実態と、AD に対する態度・認識、およびその関連要因として死生観と医療者からの介入への期待を明らかにすることを目的とした。

3. 研究方法

(1) 目的 1 の対象は、日本看護協会に登録されホームページに公開されている慢性呼吸器疾患看護認定看護師が勤務している 147 施設で勤務し、入院患者を対象にケアを提供する看護師 633 名を対象とした。調査方法は無記名自記式質問紙調査法とし、郵送にて回収を行った。調査内容は【属性】に加え、【慢性呼吸器疾患患者に対する看護師の生活支援アセスメント力】【看護師のケアリング・マインド (HCMQ-Japanese)】【看護師のアサーティブネス (Rathus Assertiveness Schedule 日本語版)】とした。

(2) 目的 2 では、対象は慢性呼吸器疾患看護認定看護師 220 名と呼吸器疾患に係わる看護師 1100 名の計 1320 名とした。調査方法は無記名自記式質問紙調査法とした。調査内容は、【属性】に加え、【ACP の行動意図】【ACP への思い】【ACP 行動に対する周囲からの期待】【ACP 行動促進要因】【ACP 行動抑制要因】とした。

(3) 目的 3 では、A 県内で血液透析を行っている者で同意の得られた 523 名に無記名自記式質問紙調査票を配布した。調査内容は、【個人属性】に加え【AD 作成に関する現状と知識】【AD に対する態度と認識】【死への関心】【『人生の最終段階』に関する医療者への期待】で構成した。

4. 研究成果

(1) 目的 1 では、調査票配布数 633 のうち有効回答数は 273 (回収率 44.3%、有効回答率 43.1%) であった。生活支援アセスメントの実施割合の上位項目は「安静時・労作時の酸素量の調整」などであった。生活支援アセスメント力とケアリング・マインドに中程度の正の相関 ($r = .506, p < .0001$)、アサーティブネスに弱い正の相関 ($r = .213, p < .001$) があった。生活支援アセスメント力を従属変数とし、ケアリング・マインドとアサーティブネスを独立変数とした重回帰分析では調整済み R2 乗 = 0.276 ($p < 0.0001$) で、ケアリングの【ものごとの決め方】【癒し】【人的・経済的資源の交換】、アサーティブネス【攻撃的な自己表現】の 4 因子が抽出された。生活支援アセスメント力とケアリング・マインドにおいて正の相関があったことは、対象者がケアリン

グ・マインドをもって関わり、その人らしい生活に焦点をあてたアセスメントをしていたことの現れであると言えよう。また、生活支援アセスメント力とアサーティブネスの間に弱いが正の有意な相関がみられたことは、対象者の生活支援のアセスメントができる看護師は、対象者が患者を尊重した態度で関わり、療養生活に必要な提案を伝えていると考える。生活支援アセスメント力の説明因子がケアリングの【癒し】であったことは、患者に寄り添う姿勢が癒しとなり、これにより相互の信頼関係が構築されることで、その人に応じた生活支援アセスメントへと導かれると考える。今後、生活支援アセスメント力の向上のために、ケアリング・マインドとアサーティブネスの対人関係能力・教育力を強化することで、その人らしさへの生活支援の充実に繋がることが示唆された。

(2) 目的2では、回収数は324名(24.5%)で、看護師経験年数は平均 14.7 ± 8.7 年で、呼吸器疾患看護経験年数は平均 7.8 ± 5.6 年であった。認定看護師は76名(23.6%)、認定看護師以外の呼吸器専門領域の有資格者は31名(9.6%)、資格なしは214名(66.5%)であった。属性のうち呼吸器疾患看護経験年数では、「態度」、「主観的規範」、「行動コントロールの抑制要因・障壁」、「行動意図」には相関がみられ、「行動コントロールの促進要因・知識」には相関がみられなかった。「行動意図」と「態度」、「主観的規範」、「行動コントロールの抑制要因・障壁」で相関がみられ、「行動コントロールの促進要因・知識」では相関がみられなかった。従属変数を「行動意図」としその他の要因を独立変数とし重回帰分析の強制投入法を行ったところ、調整済みR²乗は0.231であった。ステップワイズ法では、影響していた要因として、「主観的規範」、「呼吸器疾患看護経験年数」、「行動コントロールの抑制要因・障壁」、「態度」が抽出された。「行動コントロールの促進要因・知識」については、「行動意図」と有意な相関がみられず、重回帰分析においても要因の抽出がされなかった。

(3) 目的3では、回収数は351部(67.1%)、有効回答数は262部(50.1%)であった。「ADに対する態度と認識」を従属変数、「ADに関する知識」、「患者の死への関心」、「年齢」、「性別」、「透析歴」を独立変数とした重回帰分析では調整済みR²乗は0.26であり、「ADに関する知識」、「患者の死への関心」、「透析歴」が有意な影響因子であった。「ADに関する知識」では「年齢」は弱い負の相関関係($r_s = -.172, p < .01$)、「透析歴」は弱い正の相関関係($r_s = .155, p < .05$)を認めた。また、女性は男性に比べて「ADに関する知識」($t = -2.2, p < .05$)と「死への関心」($t = -2.5, p < .05$)が共に高かった。「人生の最終段階」の医療の説明を希望する者は132人(50.4%)であった。また、「『人生の最終段階』に関する医療の説明の希望」の希望ありと答えた人が「ADに対する態度と認識」が有意に高かった($t = -4.7, p < .0001$)。ADを作成したいと思う「行動意図」に影響を及ぼすものとして、「死への関心」と「ADに関する正しい知識」が上げられた。これらのことから、ACP行動を行うことで、ADの作成がしやすくなると考えた。AD作成の「行動意図」が高い対象者ほど「『人生の最終段階』に関する医療についての説明」を希望することが分かり、また、「人生の最終段階」に関する医療の説明は約半数の対象者が希望していた。このことから、対象者は、ADを含むACP行動を拒否的に捉えている者は多くはないことが明らかとなった。

引用文献

渋谷菜穂子, 奥村太志, 小笠原昭彦, 看護師を対象とした Rathus Assertiveness Schedule 日本語版の作成, 日本看護研究学会雑誌, 30 (1), 2007, 79-88

Ajzen, I : The Theory of Planned Behavior, Organization Behavior and Human Decision Processes, 50, 1991, 179-211.

Zhou, G. Stiltzfus, J. Houldin, A. et al : Knowledge, attitudes and practice behaviors of oncology

advanced practice nurses regarding advanced care planning for patients with cancer. *Oncology Nursing Forum*, 37 : 2010,400-410.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 橋本容子、長谷川智子	4. 巻 26, 1
2. 論文標題 看護師のACP(Advance Care Planning)支援行動の実際と影響要因	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 看護診断	6. 最初と最後の頁 4-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 牧野 富美枝, 長谷川 智子, 上原 佳子, 北野 華奈恵, 礪波 利圭, 出村 佳美, 橋本 容子	4. 巻 29, 1
2. 論文標題 呼吸器疾患患者へのアドバンス・ケア・プランニングにおける看護師の行動意図	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌	6. 最初と最後の頁 97-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷川智子	4. 巻 29. 1
2. 論文標題 呼吸ケア指導士のコンピテンシー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌	6. 最初と最後の頁 9-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嶋田 恭子, 上原 佳子, 長谷川 智子, 北野 華奈恵, 村田 美穂, 上山 香代子	4. 巻 24, 1
2. 論文標題 看護師のパートナーシップ・ナーシング・システム (PNS) 行動測定尺度の開発	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護管理学会誌	6. 最初と最後の頁 123-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青池智小都、長谷川智子	4. 巻 24(1)
2. 論文標題 手術室看護師が立案した周手術期におけるハイリスク患者の看護診断の特徴	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 看護診断	6. 最初と最後の頁 12-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出村佳美、長谷川智子、上原佳子、北野華奈恵、礪波利圭	4. 巻 23 (1)
2. 論文標題 パートナーシップ・ナーシング・システムにおけるパートナーシップと看護過程の展開との関連	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護診断	6. 最初と最後の頁 4 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北野華奈恵、長谷川智子、上原佳子、礪波利圭、出村佳美	4. 巻 18
2. 論文標題 看護師の感情規則の測定尺度の開発	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福井大学医学部研究雑誌	6. 最初と最後の頁 11 - 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川智子	4. 巻 37(4)
2. 論文標題 事例で学ぶアセスメントのポイント：健康知覚－健康管理パターン	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 クリニカルスタディ	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川智子	4. 巻 37(5)
2. 論文標題 事例で学ぶアセスメントのポイント：栄養-代謝パターン	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 クリニカルスタディ	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北野華奈恵	4. 巻 37(6)
2. 論文標題 事例で学ぶアセスメントのポイント：排泄パターン	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 クリニカルスタディ	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出村佳美	4. 巻 37(7)
2. 論文標題 事例で学ぶアセスメントのポイント：活動-運動パターン	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 クリニカルスタディ	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北野華奈恵	4. 巻 37(8)
2. 論文標題 事例で学ぶアセスメントのポイント：睡眠-休息パターン	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 クリニカルスタディ	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原佳子	4. 巻 37(9)
2. 論文標題 事例で学ぶアセスメントのポイント：認知－知覚パターン	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 クリニカルスタディ	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出村佳美	4. 巻 37(10)
2. 論文標題 事例で学ぶアセスメントのポイント：自己知覚－自己概念パターン	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 クリニカルスタディ	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 砺波利圭	4. 巻 37(11)
2. 論文標題 事例で学ぶアセスメントのポイント：役割－関係パターン	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 クリニカルスタディ	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原佳子	4. 巻 37(12)
2. 論文標題 事例で学ぶアセスメントのポイント：性－生殖パターン	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 クリニカルスタディ	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 砺波利佳	4. 巻 38(1)
2. 論文標題 事例で学ぶアセスメントのポイント：コーピングストレス耐性パターン	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 クリニカルスタディ	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原佳子	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 事例で学ぶアセスメントのポイント：価値－信念パターン	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 クリニカルスタディ	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川智子	4. 巻 38(3)
2. 論文標題 事例で学ぶアセスメントのポイント：まとめ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 クリニカルスタディ	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件（うち招待講演 7件／うち国際学会 10件）

1. 発表者名 T. Hasegawa, F. Makino, Y. Hashimoto, M. Maeda
2. 発表標題 Researches on Advance Care Planning and Nursing in Japan
3. 学会等名 UNAIR The 11th International Nursing Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoko Hasegawa
2. 発表標題 Status of Respiratory Care in Japan
3. 学会等名 The 27th annual Congress of Korean Association for Respiratory Care and 17th Ventilator Workshop (20th Anniversary International Congress) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Hasegawa
2. 発表標題 Education of Respiratory care for Nursing Career Development in Japan
3. 学会等名 The 27th annual Congress of Korean Association for Respiratory Care and 17th Ventilator Workshop (20th Anniversary International Congress) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Hasegawa
2. 発表標題 Nursing practice of advance care planning in japan:Barriers and challenges
3. 学会等名 Nursing & Healthcare Summit (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梅田尚子, 長谷川智子, 青池智小都
2. 発表標題 慢性呼吸器疾患看護領域における看護診断の特徴
3. 学会等名 第25回日本看護診断学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本容子, 長谷川智子
2. 発表標題 看護師のAdvanceCarePlanning: ACPのアセスメントの実際と影響要因
3. 学会等名 第25回日本看護診断学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川智子
2. 発表標題 看護研究の基礎と呼吸器における研究ニーズ
3. 学会等名 第29回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本容子, 長谷川智子, 磯見智恵
2. 発表標題 Advance Care Planning : ACP実施における看護師の行動意図と影響要因の関連
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川智子, 橋本容子
2. 発表標題 がん看護と非がん看護別にみた看護師のAdvance Care Planning : ACP実施の行動意図の影響要因 : 第一報 ACP実施に対する思い
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本容子, 長谷川智子
2. 発表標題 がん看護と非がん看護別にみた看護師のAdvance Care Planning:ACP実施の行動意図の影響要因: 第二報 ACP実施に関するケアのスキルおよび組織での取り組み
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 牧野 富美枝, 長谷川 智子, 上原 佳子, 北野 華奈恵, 礪波 利圭, 出村 佳美, 橋本 容子
2. 発表標題 看護師の慢性呼吸器疾患患者に対するアドバンス・ケア・プランニングにおける障壁と行動意図の比較
3. 学会等名 第11回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会北陸支部 学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧野 富美枝, 長谷川 智子, 上原 佳子, 北野 華奈恵, 礪波 利圭, 出村 佳美, 橋本 容子
2. 発表標題 慢性呼吸器疾患患者に対するアドバンス・ケア・プランニングにおける看護師の行動意図とその影響要因の明確化
3. 学会等名 第28回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川 智子
2. 発表標題 呼吸器疾患 終末期看護
3. 学会等名 第1回呼吸器看護研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本容子、長谷川智子、磯見智恵、四谷淳子、繁田里美
2. 発表標題 がん患者へのACP (Advance Care Planning) 推進に向けた看護師の行動意図および影響要因の検証
3. 学会等名 第33回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miki Nakanishi, Megumi Hashimoto, Seiya Shimada, Satomi Morimoto, Kumiko Asakawa, Tomoko Hasegawa
2. 発表標題 Survey of Existing Conditions of the Respiratory Care Team in Japan: An Analysis of the Impact Factors
3. 学会等名 American Association for Respiratory Care 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoko Hasegawa, Norihiro Kaneko, Tetsuo Miyagawa, Tohru Tsuda
2. 発表標題 "Status of RC in Japan" Certified Nurses in Respiratory Care in Japan
3. 学会等名 American Association for Respiratory Care 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前田将文 長谷川智子 上原佳子 北野華奈恵 礪波利圭 出村佳美
2. 発表標題 血液透析患者における「事前指示書」に関する実態と影響因子の明確化
3. 学会等名 第2回日本エンドオブライフケア学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧野 富美枝, 長谷川 智子, 上原 佳子, 北野 華奈恵, 礪波 利圭, 出村 佳美, 橋本 容子
2. 発表標題 看護師の慢性呼吸器疾患患者へのアドバンス・ケア・プランニング実施に関する影響因子の明確化
3. 学会等名 第2回日本エンドオブライフケア学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧野 富美枝, 長谷川 智子, 上原 佳子, 北野 華奈恵, 礪波 利圭, 出村 佳美, 橋本 容子
2. 発表標題 看護師の慢性呼吸器疾患患者へのアドバンス・ケア・プランニング実施に関する調査用紙の作成過程
3. 学会等名 第27回福井呼吸ケア研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川智子
2. 発表標題 呼吸ケア指導士のコンピテンシー
3. 学会等名 第27回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長谷川智子, 永田明, 佐藤正美, 神谷千鶴, 石川ふみよ
2. 発表標題 日本で使いやすい看護診断を発信しよう
3. 学会等名 第23回日本看護診断学会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ueda, M, Hasegawa, T, Uehara, U, Kitano, K, Tonami, R, Demura, Y.
2. 発表標題 Nurses' caring mind and self-management supports for patients with chronic pulmonary diseases
3. 学会等名 EUROPEAN RESPIRATORY SOCIETY INTERNATIONAL CONGRESS 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Asakawa, K, Kondo, M, Fujii, M, Emori, N, Hasegawa, T.
2. 発表標題 A descriptive study on medical error incidents including near misses related to insulin administrations in a hospital in Japan
3. 学会等名 IARMM 6th World Congress of Clinical Safety 2017 in Rome (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 磯波利圭、長谷川智子、上原佳子、北野華奈恵、出村佳美
2. 発表標題 看護師に対するCOPD研修における知識の変化の検証
3. 学会等名 日本看護研究学会 第31回近畿・北陸地方会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上田真弓、長谷川智子
2. 発表標題 慢性呼吸器疾患患者に対する看護師のアセスメント力と影響因子の検証
3. 学会等名 第22回日本看護診断学会学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上田真弓、長谷川智子
2. 発表標題 在宅酸素療法導入時の患者教育と看護師のコミュニケーション力との関連
3. 学会等名 第26回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 青池智小都、長谷川智子
2. 発表標題 手術室看護師からみた周手術期の看護診断の現状
3. 学会等名 第30回日本手術看護学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 C. Aoike, T. Hasegawa, K. Asakawa, K. Miyagawa, Y. Uehara, K. Kitano, R. Tonami, Y. Demura
2. 発表標題 Characteristics of perioperative nursing diagnoses for high-risk surgical patients
3. 学会等名 NANDA-International 2017 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 T. Hasegawa, Y. Demura, Y. Uehara, K. Kitano, R. Tonami
2. 発表標題 Imprecations of nursing process and partnership mind in the Partnership Nursing System
3. 学会等名 NANDA-International 2017 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 長谷川智子
2. 発表標題 看護過程の展開と看護の可視化
3. 学会等名 第9回鳥取県実践が活きる看護診断研究会（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 長谷川智子（小笠原知枝編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ヌーヴェルヒロカワ	5. 総ページ数 301-307、343-356
3. 書名 エンドオブライフケア看護学、基礎と実践	

1. 著者名 長谷川智子（編：河内文雄、巽浩一郎、長谷川智子）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 40、50-59
3. 書名 一歩先のCOPDケア：第 章「看護でここまでできる」COPD看護の今とそのさき	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上原 佳子 (Uehara Yoshiko) (50297404)	福井大学・学術研究院医学系部門・准教授 (13401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浅川 久美子 (Asakawa Kumiko) (10614430)	福井大学・学術研究院医学系部門・兼任教員 (13401)	
研究分担者	北野 華奈恵 (Kitano Kanae) (60509298)	福井大学・学術研究院医学系部門・講師 (13401)	
研究分担者	礪波 利圭 (Tonami Rika) (10554545)	福井大学・学術研究院医学系部門・助教 (13401)	
研究分担者	出村 佳美 (Demura Yoshimi) (30446166)	福井大学・学術研究院医学系部門・助教 (13401)	
研究分担者	青池 智小都 (Aoike Chisato) (00749658)	福井大学・学術研究院医学系部門・特命助教 (13401)	
研究分担者	橋本 容子 (Hashimoto Yoko) (90789695)	福井大学・学術研究院医学系部門・助教 (13401)	
研究分担者	梅田 尚子 (Umeda Naoko) (10808306)	福井大学・学術研究院医学系部門・特命助教 (13401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------